

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第5回 防災・安全部会	
日時	平成22年12月28日（火）午前9時30分から午前11時20分	
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室17	
出席者	作業部会員 (敬称略)	青木 邦一、羽藤 公夫、松岡 保正、有澤二三明、猪俣 正由、袖山 孝史、高野 隆司、原 覚、本道多加子
	関係課員	危機管理防災課、交通政策課、都市内分権課、市民活動支援課、市民課、厚生課、保健所総務課、保健所健康課、森林整備課、商工振興課、道路課、河川課、維持課、建築指導課、まちづくり推進課、配水管理課、消防局総務課、消防局予防課、消防局警防課、消防局通信指令課、企画課（事務局）

会議次第

- 1 開 会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第4回 防災・安全部会 ワークショップまとめ（案）について
テーマ：政策3-2 より安心して暮らせる安全社会の形成
- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画 大綱まとめ（案）について
 - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系（たたき台）【防災・安全分野】
 - (2) 政策3-1 災害に強いまちづくりの推進
 - (3) 政策3-2 より安心して暮らせる安全社会の形成
- 5 その他
 - (1) 今後の予定について
- 6 閉 会

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 市民フォーラム21 第4回 防災・安全部会 ワークショップまとめ（案）について
別紙資料のとおりまとめることで確認した。
- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画 大綱まとめ（案）について
 - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系（たたき台）【防災・安全分野】 資料3
後期基本計画の体系（たたき台）【防災・安全分野】については、(1)から(3)まで、協議した上で、事務局からの提案のとおりまとめることとした。
資料3のとおりでいいと思うが、住民を巻き込んだ中で、防災、あるいは減災ということについて、公助はもちろん必要ですが、自助という部分を市民の皆さんに理解していただくことが必要と、WSの議論の中でもあった。災害をいかに少なくするか、防災を併せて地域を自分たちで守るといふ、表現があってもいいかなと思う。
「自助、互助の認識」等については、今後、方針等整理していく中の中で反映していくようにしたい。
 - (2) 政策3-1 災害に強いまちづくりの推進 資料4
都市内分権について、住民自治協議会が全地区で組織されたが、都市内分権の目指すもの

が見えていないと感じる。前期と違った見方や方針などを、後期基本計画の中に入れていただければありがたい。都市内分権においては、防災・安全分野について、住民が自主的に行っていくという方向性はあるのか。

住民自治の推進については、総合計画では59ページにあるが、都市内分権の推進を掲げている。地域の個性を生かした住民自治の推進ということを総合計画で掲げている。

防災に関することについて、地域に浸透しつつあるのかということについては、災害が7月にあった時に、住民の皆さんが活躍されたということ、住民自治の発表の場でもお聞きしている。すぐに浸透するものではないので、いろいろな仕掛けをしながら行っていきたい。

縦割りではなく、地域づくりも巻き込んだ中で、一体化した中でやっていかないといいなと思う。せっかく住民自治協議会もあるのだから、施策を生かすための啓発活動など、具体的なことを入れることも必要かもしれないと感じた。

住民自治協議会については、地域で格差があると思う。その辺はどのように考えるのか。浸透させていくことが課題であると思う。

具体的には、地域に防災体制をつくる時など、必要な時に職員が地域に入っていけるような体制を取っていきたい。防災関係でいえば、体制構築が遅れているところについて、出前講座をはじめとして、具体的に地域に入っていくということが今後は、必要なことと思っている。

都市内分権も一つの課だけでやると無理があるので、横の繋がりも上手にやって、例えばチームを組むなどの工夫をして、行ってほしい。

「自助」は大切なことであると思う。そして、地域の中で大勢の人が入った取組みが必要だと思う。起こりえる災害は地域により異なる中で、一人でカバーできることは少ないと思うので、予めどのような災害が起こるかを予測し、それに対する手配を地域で行う。それを担うのが自主防災組織などであると思う。その体制をどのように作りあげるかということを入れておきたい。そうでないと、自助や互助という言葉が生きてこないと思う。政策3-1、3-2とも「自助、互助」という項目がキーワードとして必要となるだろうと思う。「自助、互助」の意識を高めるといことであれば、むしろ政策の方の「より安全で安心して暮らせるまち」というのを「より安全で安心してともに暮らせるまち」というふうにできれば、と思う。政策にも「自分たちで自分たちのまちを守る」というような表現が入れば、それぞれの施策の中にオーバーラップしていくということになると思う。

自助・互助（共助）が必要であり、これを連携させないと、うまくいかない。この意見がうまく入るようにしたい。

基本構想に係る政策名称は、変更しないと審議会でも整理した。しかし、部会委員の皆さんの議論を、基本施策の方針などに盛り込んでいくことを検討したい。

取組みの中などで表現し、さらに一步踏み出せる表現になれば、大きい項目を変えなくてもいいと思う。

(3) 政策3-2 より安心して暮らせる安全社会の形成 資料5

冬期間の道路の安全確保は、この表現でいいが、さらに、学校の近くなどで、特定の時間帯に学童が歩行者として大勢通るような場所の歩道などの除雪をして安全確保、そのようなニュアンスが伝わるようにしてほしい。

例えば、道路の拡幅というようなハードの整備もあるし、それほど長距離でなければソフト的な対応など。いずれにしても、歩行者と車がうまくお互いの安全が確保できるようなニュアンスが伝わるとうい。

すべてを除雪することは難しいことは理解している。ソフトで対応するなど方策があるのではと思う。

交通安全で、この項目一つ一つではないが、WSではマイカーを減らそうという話が出た。マイカーを減らすと渋滞が減るなど、いろいろな意味でプラスになる。車が減らない中での交通安全は大変になる。時代背景もあるので環境に配慮し、マイカーを減らすような形の何を何らかの文言で表現できればと思う。

道路の整備が進んできている。一方で、車社会の中で、公共交通が衰退してきている。交通政策の上では、市内の渋滞対策面において、マイカーを減らすという方向性は重要であり、これから力も入れていきたいと考えている。しかしながら、公共交通を通勤・通学で使ってくださいというためには、利便性をアップしなければ、言葉だけで終わってしまうと考えている。社会活動の中では、車がまったくないということはあるので、交通安全対策の視点においては、まず、啓発運動。また、ハード面では、歩車道の分離などということが将来的には必要だと思う。

また、車を減らす乗り換え促進については、都市整備の公共交通の分野で取り扱っている。この防災・安全分野では、安全という視点からの議論としていただければと思う。前期計画では621-02「効率的な交通環境の整備」に記載がしてある。

車を減らすという方向性で、生活していかないと減らないと思う。交通安全だけの話ではないと思うが、長野市がどこを目指すかということになるのだと思う。交通安全という側面もあるので、市民の皆さんに認識を持ってもらえるようにしていただければいいと思う。

冬期間の道路の安全確保については、歩道まで雪をかくということは大変なことなので、住民、商店街の皆さんなどの協力がまず必要ではないかと思う。

その上で、除雪後の排雪では、ダンプと人がきてくれても、高齢化してきている中で、積み込み作業ができなくて困ったということがあった。住民の皆さんができることはお願いしていただき、雪の排雪のようなことを行政で考えていただければ、と思う。

現状について。除雪は主に車道を実施している。学校前など一部歩道でも除雪を行っている。大雪が降った場合、ダンプをお貸しすることをしているが、積み込み作業は住民の皆さんに行っていただいている。

自転車の保険の話がWSで出された。事故のことを考えると保険への加入について、何らかの形で入れておけないか。

交通安全からの視点では、まず、自転車の乗り方、交通ルールという面で、啓発活動を行うことが大切であると考えている。保険や盗難防止登録については、啓発していくべき事項かと感じている。